

大切にしよう 高齢者との取引



少子高齢化の現状と 高齢者の金融資産保有の傾向

株式会社 ニッセイ基礎研究所
金融研究部 上席研究員 梅内 俊樹

1988年日本生命保険相互会社入社後、ニッセイアセットマネジメント株式会社等を経て、2009年より現職。年金制度や年金運用のあり方、個人の退職後の資産形成等について調査研究を行う。一橋大学大学院国際企業戦略研究科MBA（専門職学位課程）修了。



1 少子高齢化の現状と見通し

(1) 高齢化の動向

わが国の総人口は二〇〇八年をピークに減少に転じており、今後、長期の人口減少過程に入ることが予想されます。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によれば、二〇一五年に一億二七〇九万人であった総人口は、二〇五〇年代前半には一億人を割り込み、二〇六五年には八八〇八万人まで減少するときに

れています（図表1）。

人口が長期の減少傾向となるのは、合計特殊出生率（一人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子の数に相当）が低迷するためです。合計特殊出生率は、一九七〇年代に人口を維持するために必要な水準（二・一程度）を割り込んで以降、低下傾向で推移し、二〇一五年には一・四五まで低下しています。将来的にも大幅な改善が見込めない状況であり、人口減少の継続が予測されるところです。

一方で、高齢者の死亡率も大きく低下しており、平均寿命は延び続けています。二〇一五年に男性で八〇・七五年、女性で八六・九八年であった平均寿命は、二〇六五年にはそれぞれ八四・九五年、九一・三五年に達するものとみられています。

少子化に歯止めがかからず、高齢者の余命が延びるなか、六五歳以上人口の総人口に対する割合（以下、「高齢化率」という）は高まることを見込まれています。一九九五年に一四・六％であった高齢化率は、二〇

一五年には二六・六％まで上昇していますが、この割合はさらに上昇を続け、二〇六五年には三八・四％まで上昇するとされています。また、六五歳以上人口と一五〜六四歳人口の比率で見ても、一九九五年に一人の六五歳以上の高齢者に対して四・八人であった現役世代（一五〜六四歳の者）は、二〇一五年には高齢者一人に対して現役世代二・三人まで低下しており、二〇六五年には一・三人まで低下することが見込まれています。

特集

大切にしよう
高齢者との取引

事例で確認
気配りしたい窓口対応

行政書士福田法務事務所
代表 福田秀喜

1991年京都産業大学卒業後、
但馬銀行入行。京都支店、福知
山支店、本部営業推進部門・コ
ンプライアンス部門を経験。
2009年退職して現事務所設立。
金融機関のコンプライアンスサ
ポートを専門分野として活動中。